しのびよる毒ガス

宮浦駅で五名が中毒
公傷認定も出せぬ会社

眼がトビ出る痛さ

七月十日午前五時五分ごろ三池鉄道宮浦駅選炭機下で石炭つみこみ作業中の本兼則さん、味志道善さん（いずれも三池労組組合員）らは突然頭痛を感じた。その後午前六時に仕事を終り帰宅した本さんは二・三時間後になって急激に眼の玉がトビだすような痛さと、頭のしびれを感じた。

本さんは、宮浦駅の係員に電話で連絡をとり、係員の了解のもとに天領病院に行き、精密検査をうけ十日から十四日まで休業治療を行なった。

このほか味志さんも眠痛、頭痛を訴え通院治療を行なっている。

停電で中和ストップ

この事態を重視した三化労組も十二日に三化の会社側と話し合いをもち原因究明を行なった。その中で明らかになったことは、七月十日午前四時ごろ三化全工場で電圧降下がおこり、TDI工場から放出されるホスゲン（旧陸軍でも毒ガスとして使用した）を中和する装置がストップし、ホスゲン、塩素ガス、COガスのいずれかがそのまま放出されたことがわかった。

五人が吸ったと思われるホスゲンは、旧ドイツ軍も第一次世界大戦で使ったといわれ、殺人毒ガスとして有名である。

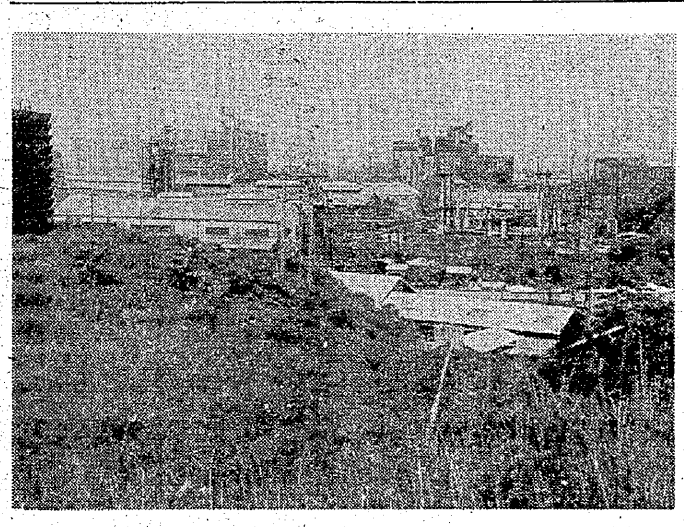
ところが三池港務所は本さん以外の人が休まなかったことを理由に公傷認定もせず、三井化学が見舞に行こうとするのを「その必要はない。必要があれば知らせる」といって断ってしまうありさまである。

ベトナム向け毒薬も作る

毒ガスを放出した三井化学大牟田工業所は、大牟田川に水銀を流しつづけているばかりか、ベトナムでアメリカ軍が「枯れ葉作戦」に使っている二四五TCPを作り輸出していることがわかった。

大牟田反戦青年委員会を中心に製造反対運動がおきているが、三井化学はベトナムばかりでなく、日本でも人殺しをしようとしている。

われわれは、三池港務所のこの不遜な態度とともに三井化学の責任を追及しつづけよう。



この工場の中でベトナム向け毒薬がつくられている

今後専門部が中心に
弱点の克服めざす
四山、職場四分会〝分会方針〟

各ヤマの職場分会、地域分会では、つぎつぎに新しい年の前進を準備するための分会方針の確立をめぐり、討論が行なわれている。

四山の職場四分会もその一つでこれまでの一年間の闘いを総括しそこから克服すべき課題をひきだし、課題の解決に全専門部が先頭にたって闘いを強化してゆく〝分会方針〟を確立した。参考のため方針（要約）を紹介すれば、次の通りである。

分会方針

今年をふり返って素直にいえることは、分会の方針がまったく生かされなかったということです。

その大きな理由としてはなんといっても、三川鉱大爆発の犠牲者であるCO患者・遺族の今後の補償と、会社に対する責任追及、CO立法に向っての重要な闘い、また、その後にでてきたCO闘争に費やした財政の処理に目が向いてしまって、分会としての方針をもちながら、この闘いを支える基本となる職場における闘いが指導できなかったところに、最大の問題点があったと思います。

しかし、その闘いの中から成果はでています。CO闘争を通じて自分たちが運動の中でどうあるべきか、について意見がでてきたことを反省し、本年は専門部を中心とで、その代表的な意見として

①闘争をやる上においては、すべて金がかかる。そのことを明らかにしておかないと、闘いが全体のものになれない。

②三鉱労組時代の闘いと、二千名に減った現在の闘い方とが同じじゃないか。

③闘いが永くなれば問題点がでてくる。その問題点に対する指導をやらずに、「闘え、闘え」では闘いは発展しない。

④大衆討議といって下部に問題が落とされてくるが、ただ討論するだけで、その意見があまり取り入れられない。

このように意見が職場討議の中からでてきたことは、過去の経験にはないことでした。

分会内部の問題としては、

①諸集会の参加が悪くなってきたこと。

②助け合いの精神がうすれてきている。

③資本の不当性に対する反発力が弱まってきている。

これらをいかに克服してゆくかが、分会の今後の課題といえます。

さらに、会社の組織攻撃を阻止できず、一名の脱落者をだしたこと。

明らかに違います。

石原氏を押し出した財界リーダーの一人、八幡製鉄の藤井丙午副社長は、自民党に「新しい血をふきこむ」石原氏の役割りを強調し、「この点、大松、今両氏とはちがって、彼の登場はもっと積極的な意味をもっている」と評価しています。石原氏は、青年層を自民党につなぎとめるために、独占資本と自民党首脳がつくりだしたピエロにすぎないといえるでしょう。

【KNA】

三百万票の中身

こんどの参議院選挙では〝タレント候補〟が話題にのぼり、そのチャンピオンに、三百万票をさらった石原慎太郎氏があげられています。しかし石原氏の票は、自民党を通じて松下電器、東洋工業などの独占資本その他の組織によってかき集められたもので「票の大半は個人票、人気票ではなく、組織票」（週刊朝日7・19）なのです。青島幸夫、横山ノック氏の場合とは

死んで花束に埋まるよりも……
全造船長崎の〝しんすい〟から

このほど送られてきた〝しんすい〟（全造船機械三菱長崎分会機関紙）によれば、組合員＝水谷多四郎さん（48才）を災害で亡くしたこの機会をとらえ、同分会の名で「生命と健康を守る闘いを強めよう」と、全組合員に呼びかけている。記事は、要約次のようにいっている。

私たちは最近、死亡災害や重大災害が発生しても「またか」という程度で、不感症になってはいないでしょうか。

人間の命は、地球よりも重いといわれます。井戸に落ちた幼児を救うのに警察や消防団、クレーン車まで動員して、昼夜兼行で救出作業を行なうことが、大きなニュースになるのです。にもかかわらず労仂災害に対しては、あまりにも多発するがために、かえって不感症になっているのではないでしょうか。安全問題は会社や職制のものではない、私たち労仂者自身の問題です。

造船産業における労仂災害は、船の進水量に比例して増大しています。死亡災害実績が示すように、昭和三十七年に本工＝十八人、下請工＝二十七人だったのが同四十二年には本工＝二十九人、下請工＝五十人に激増しています。

それでも「本人の不注意」という言葉が、災害時によく聞かれます。だが、わざと不注意をすることは誰にもできません。不注意は原因でなく結果です。なぜ不注意が発生するかの条件を追及して、これを排除すべきなのです。

職場生活は和気あいあいたる雰囲気にあるか。疲労はないか。工期に追われていないか。安全設備にカネをかけているか。私たちは死後花束に埋まり、美辞麗句をうけるよりも、いま安全に労仂できる措置をとらせることこそ大切なことです。私たちは県労評などの協力をえて、基準局長に対して

①監督官を増し、行政指導を強め法違反を摘発し、労仂災害の防止に努めよ。

②……略

③会社の安全競争、無災害競争のため、当然の公傷が私傷あつかいにされている。会社が業務外と立証できない限り、業務上公傷と認定せよ。

④労仂災害保障を拡大せよ。

と要求しました。簡単にとれるとは思えませんが、全労仂者が「自からの生命と健康を守ろう」と決起することによって、実現しなければなりません。

障害年金受給者の皆さんへ

このほど全国じん肺患者同盟本部から各会員に対して、障害年金受給者の現況届に関する要領について通知がありました。

この現況届は年金を受けるために絶対必要なものなのでとくに同盟本部から通知のあった届け出要領について記しておきます。

(1)現況届けでの提出期限が七月十五日だったが、今年に限り七月三十一日までに提出すればよい。

(2)届け出用ハガキに書く住所は支払い場所になっていて住民登録のしてある住所だから感違いしないこと。

(3)添付の診断書は、とくに提出するよう指示を受けた人以外には、提出しなくてよい。

なお、各患者の手許に送られてきたチラシ（障害年金受給権者のみなさんへ）を読んでわからないところがあれば近くの「社会保険事務所」（大牟田市では浄真町の、警察署の向い側に在る）に問い合わせていただくこと。どうか間違いのないようにお願いします。

――編集部

海の家を格安に利用できます

大牟田地区の身体障害者で結成されている身障者同盟は、いまからシーズンに入る三池海水浴場に海の家「青い鳥」を開設し、活動資金作りとあわせて大地評傘下の組合員に格安に利用することを訴えている。

「青い鳥」は家族づれでも一マス一日百円で利用できる。駐車場も開設し、自転車は十円（一般は二十円）、バイク三十円（一般は五十円）、自動車は七十円（一般は百円）、シャワーも海の家に設置されているが、無料で利用できます。

なお、「青い鳥」を利用したい方は組合員である証明書を持参しなければなりませんが、証明書は組合本部にあります。

くらしのメモ
マナ板は細菌の巣

一般的にいって木のマナ板の九〇％以上に大腸菌がついているということです。五センチ平方にさまざまな細菌が十万個ぐらい検出されることも珍しくないそうです。しかも、表面についているだけでなく、木の中までしみこんでいるのです。

ですから、きれいに洗ったと思っても、また二～三時間たつと浮き上がってモトのモクアミになってしまいます。

マナ板を清潔にしておくために

①キズがついたら、たいらにけずる。②大腸菌は六〇度Cのお湯で絶滅しますから、熱湯をかけたり、できれば沸騰消毒、そのあと乾燥させることです。

▼CO患者の病気見舞や長欠者宅の巡回を行なう。

▼職場新聞月一回発行。

▼学習は全員参加できるよう、身近な問題に力点をおき、月一回行なう。

▼賃金の実態調査を続ける中で歩増の格差をなくす闘いを組む。

▼負傷者がでれば要求をだし、抗議を行なう。

（以上は主なものに限り紹介）